

ノーベル賞 根岸英一先生が西高で講演

高校時代に学んだことが全ての基礎



ノーベル化学賞を受賞した根岸英一・米パデュー大特別教授が、北海道大学触媒化学研究センターの特別招聘教授となったのを受け、来道。根岸さん本人の申し出により札幌の高校2校で講演を行うこととなり、札幌西高が選ばれ12月24日生徒相手に講演が行われた。

公演内容は、「東大の学生相手に話した内容と同じですが」と前置きで、根岸教授独自の理論である「10の7乗」理論を披露された。

・「10の7乗」理論

20世紀100億人住んでいたとしてノーベル賞は700~800人が取っている。1000人とするとも1千万人に1人がノーベル賞を取れることになる。確率は10の7乗分の1である。そのまま考えると宝くじと同じで、どうやっていいか判らなくなる。しかし、10人に1人のセレクションを7回通ると考えればたいしたことではない。学生諸君は少なくとも既に10

の3乗分の1には達している。後は10の4乗分の1だ。

頑張ればステップの向こうに必ずゴールが見えて来る。

博士がカリフォルニア大学の化学賞を取った時、直近受賞者30人の内で10人がノーベル賞を取っていた。その時には3分の1にいた。テイジンで100倍近い競争率のフルブライト奨学金に合格した時も一つのゲートをくぐったことになる。400人いるブラウン教授門下生となった時は既に千分の1まで来ていたのかもしれない。

講演後、壇上での在校生との座談会では質問者からの質問にも気さくに応える場面もあり、生徒たちにはビッグなクリスマスプレゼントとなった。

最後に「高校時代に学んだことが全ての基礎になる。

好きな事が何であるかを見極め、好きな事が、しっかりと出来るようになってほしい」と締めくくった。

記 瀬下征士 (西高12期)